

うずの丘・大鳴門橋記念館

ふちんかん

予定より早くうずしお観察を終えた取材陣、予定外だった「うずの丘・大鳴門橋記念館」に向かいます。ここは先述の「道の駅うずしお」と同じ系列の施設であります。道の駅が大鳴門橋を間近に臨むレストランなどの食主体の施設なのに対し、こちらは大鳴門橋を俯瞰する丘の上にあり、展望台的な側面と科学館での学習施設といった側面を持っています（以前は淡路人形浄瑠璃館もありました）。

たまねぎキャッチャー

☺☺☺

エントランスに入っすぐにあるクレーンゲーム。玉ねぎをすくい取ると 1.5kg の玉ねぎがいただけるというもの。取材陣も3人が1回（100円）ずつ挑戦しましたが、まあ無理ゲーです。

500円だと6回連続でできますが、列に並んでいる方からブーイングが来そうです、つてか普通に玉ねぎを買ったほうがノーリスクですね。



1 F 館内 玉ねぎソファ

☺☺☺

記念撮影用においてあるウィッグとともに。まあたまには はしゃいだ感じもいいよね。



1 F 館内 玉ねぎテーブル

たぶん玉ねぎをスライスモチーフにしているのだろう…内側はなんか座りにくそうです。

1 F 館外 #おっ玉葱

屋外にある2m近くもある大型の玉ねぎ模型。こうやって羅列してみると、この施設は玉ねぎ推しですなあ。



2 F 絶景レストランうずの丘



TV番組でも有名になった「うにしゃぶしゃぶ」・3800円が有名。まあ今回は営業が終わっていたし話のネタにしても、ちと高い…。が、しかしHPの写真を見ると食べたくなってきますなあ。



3 F 屋上展望台

大鳴門橋が一望できる。なかなかの眺望であります。



☞福浦港側の景色。

1 Fうずしお科学館

今回の取材で一番の驚きのスポットとなったのでページを割いて紹介します。

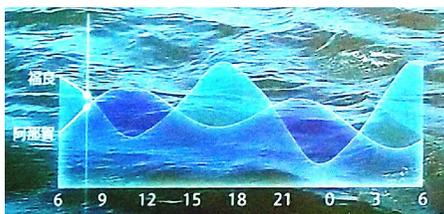
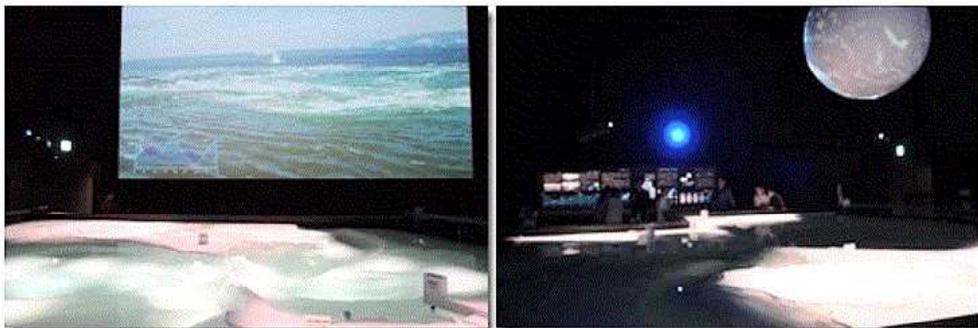
地学マニア?の私は、ここは何度も来ている場所で、ほとんど期待していなかったわけです。というのも何回来てもメインホールの大型画面を使った映像プログラムが同じ内容で変化が無いからです。しかもその中身はと言うと、ありきたりのヘリコプターからの空撮映像に淡路島の四季・文化、そして日本昔話調のうずしお物語、てな感じのもので、しかも部分的にチープな3Dめがねをかけての疑似3D映像って代物だったのだ。

ー昨年2月の拙ブログは <http://www.ma-2.com/blog1/?p=3192>

しかし今年3月に大規模リニューアルがあったようで、とても素晴らしい展示になっていたのです。

うずしお科学館のHPは <http://kinen.uzunokuni.com/kagakukan.html>

何がすごかって、メインホールに新設された鳴門海峡を模した立体模型。周辺地形を完璧にシミュレートした縦5メートル、横10メートルの大型ジオラマに、大量の水を供給/排出するシステムを組み合わせたもので、それに大画面スクリーンによる映像と球体スクリーン映像が絡み、映像とリンクする形で大型ジオラマの中の水が移動するしくみとなっているのです。約20分の映像と水の動きを見ることで、鳴門海峡の潮流やうずしおの発生原因が理解できるというプログラムで、なんとも壮大でわかりやすい学習施設になっていたんですよ。



画面左下に現れる福良港(瀬戸内側)と阿那賀港(太平洋側)の干満と時刻のグラフが、鳴門海峡を挟んだ二つの水面の干満差を表している。そしてこれに連動して大型模型の2つの水位が変化し、その結果、実際にジオラマ中央にある大鳴門橋の模型周辺に潮流と渦潮が生じるようになっている。

